

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道126号 八木拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	千葉県
起終点	自：千葉県銚子市三崎町 至：千葉県旭市八木	延長	5.2km		
事業概要	<p>一般国道126号は、千葉県銚子市から千葉県千葉市までの延長約80kmの路線であり、山武・東総地域と首都圏や県都千葉市等を結び、広域的な交流・連携による地域経済の活性化に寄与するものである。この内、八木拡幅は、銚子市三崎町から旭市八木までの5.2kmである。</p>				
事業の目的、必要性	<p>八木拡幅は、現国道126号の交通混雑緩和、線形不良による事故多発区間の改善、幅員狭小区間における歩行者や小中学校の通学路としての安全性の確保等の他、利便性の向上による地域活性化に大きく寄与するものである。</p>				
全体事業費	37億円	計画交通量	21,900台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
「山武・東総地域広域幹線道路整備促進期成同盟会」の他、「銚子連絡道路を活用した東総地域活性化推進協議会」により整備促進の要望を受けている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.3	総費用：33億円 （事業費：29億円 維持管理費：4億円）	総便益：108億円 （走行時間短縮便益：64億円 走行費用減少便益：20億円 交通事故減少便益：24億円）	基準年 平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.7 (交通量 +10%)	B/C=2.9 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C=3.0 (事業費 +10%)	B/C=3.6 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=2.9 (事業期間 +20%)	B/C=3.8 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		現道の交通混雑緩和が期待される。 【1km当たり（台kmあたり）渋滞損失時間】 39,286（人・時間/年・km） 県内536箇所のうち141位、上位26.3%に当たる。		
		事故対策		死傷事故率が高い区間の事故の減少が見込まれる 【死傷事故率】205.0件/億台キロ（死傷事故率比（県内平均比）1:1.5（現状）） 千葉県内平均：約136.0件/億台キロ（約1.5倍） 全国平均：約119.9件/億台キロ（約1.7倍） 事故率曲線 千葉県県内センサス区間の上位5割以内に含まれる		
	社会全体への影響	歩行空間		歩行者・自転車の安全性の向上（現道からの自動車交通の大幅な転換により、歩車分離が進み安全性が高まる）		
		住民生活		三次医療施設旭中央病院へのアクセス向上（銚子市役所～旭中央病院の所要時間23分 21分）		
		地域経済		銚子漁港を中心とする水産業、青果物などの輸送の迅速化による市場拡大に大きく貢献（H17銚子港の水揚げ量21万t 全国2位、県内有数の食糧生産基地）		
		災害		緊急輸送道路を形成（現道で発生する交通混雑が解消され、一次緊急輸送道路の機能確保が図られる）		
環境			CO2排出削減量：3,865t/年 約4割削減 NOx排出削減量：9.9t/年 約2割削減 SPM排出削減量：0.7t/年 約3割削減			
地域社会		主要な観光地へのアクセス向上（主要な観光地である「犬吠崎」や「ウオッセ21」など[年間観光入込客数=250万人]へのアクセス向上）				
事業実施環境	-	特筆すべき事項はない				

採択の理由

費用対便益比が3.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、当該箇所の現況渋滞損失時間が県内上位にあり、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。